

專門分野

○地域・在宅看護論

- ・地域・在宅看護論概論
- ・地域・在宅看護論援助論Ⅰ
- ・地域・在宅看護論援助論Ⅱ
- ・地域・在宅看護論援助論Ⅲ
- ・地域・在宅看護論演習Ⅰ
- ・地域・在宅看護論演習Ⅱ

科目区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護論概論	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 地域で暮らす人々の生活や行われる看護の特徴を理解し、支援につなげる基礎的な能力を養う。</p> <p>目標: 1 社会の変化と地域・在宅看護の意義を理解できる。 2 地域で暮らす人々の生活を理解し、健康との関連が理解できる。 3 地域で行われる看護の概要が理解できる。 4 地域・在宅看護に関する制度とその活用について説明できる。 5 地域・在宅看護の理念の基本事項・倫理について理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 地域における健康な暮らし 1)暮らしとは 2)暮らしと健康の関係 3)暮らしの中で健康を捉える 2 暮らしと地域 1)地域の定義 2)環境が生活に及ぼす影響	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
2	3 地域・在宅看護の基盤となるもの 1)地域・在宅看護とは 2)地域・在宅看護の対象 (個人・家族・集団・コミュニティ) 3)看護活動の場の広がり 4 地域での看護活動の変遷 5 地域・在宅看護の背景	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
3	6 地域・在宅看護に求められる役割 7 地域・在宅看護活動に必要な基本理念 8 在宅看護の倫理的課題 1)在宅看護における権利保障 2)倫理的課題と自己決定	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
4	9 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1)地域包括ケアシステムと社会資源 2)地域での生活を支える組織活動 3)看護の継続性(療養の場の移行に伴う看護)	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
5	10 地域・在宅看護にかかわる法律と施策 1)介護保険・医療保険制度 2)地域・在宅看護に関わる法制度	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
6	11 訪問看護サービスのしくみと提供 1)訪問看護とは 2)訪問看護の創設と発展の経緯・現状 3)訪問看護制度(在宅看護に関わる制度とその活用) 4)訪問看護ステーションのしくみ (1)開設基準と従事者 (2)法に基づく訪問看護事業 (3)訪問看護利用までの流れと費用 (4)訪問看護サービス提供	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
7	12 多職種の機能と役割・協働・連携 13 看護職の役割	準備:テキスト・配布資料を読む 復習:授業内容を振り返りまとめる	

	14 地域・在宅看護の動向と今後の展望	
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 課題レポート、グループワーク、演習参加態度等	
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践	
参考文献	ピラールプレス 看護師のための地域看護学 ナーシンググラフィカ 地域在宅看護論① 地域療養を支えるケア	
履修上の留意事項	自分の暮らし、地域に目を向けて、予習・復習をして授業に臨み、グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護援助論 I	単位数(時間)	1 単位(15 時間)
開講年次	2 年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 多様な場で提供される看護を理解し、地域での支援を行うための看護技術の知識を養う。</p> <p>目標: 1 地域・在宅看護の提供方法と看護師の役割が理解できる。 2 継続看護の必要性を理解し、様々な職種や関係機関との連携が理解できる。 3 在宅看護における安全管理について理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 広がる看護の対象と提供方法 1)看護の実践方法の広がり(外来、訪問、施設、地域) 2)地域・在宅看護における看護師の役割 2 地域・在宅看護の対象への看護 1)人々のニーズに応える看護 2)地域における家族への看護		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。
2	2 地域・在宅看護のマネジメント 1) マネジメントとは 2) 多様な場におけるマネジメント (1)病棟・外来・介護保険制度上のマネジメント (2)地域住民とともに行うマネジメント (3)居宅におけるマネジメントとその実際 (4)社会資源の活用の実際		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。
3	3 多職種連携・多職種チームにおける協働 1)多職種チームでかかわる意義 2)多職種チームとの連携・協働の実際 3)看護師の役割		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。
4	4)事例を用いたアセスメント(グループワーク・発表)		準備:ワークシートに記載し、アセスメントを行う。 復習:グループワークで行ったことを振り返りまとめる。
5	4 地域・在宅看護における療養環境 1)療養環境のアセスメント 2)療養環境調整の実際		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。
6	3)事例を用いたアセスメント(グループワーク・発表)		準備:ワークシートに記載し、アセスメントを行う。 復習:グループワークで行ったことを振り返りまとめる。
7	5 地域・在宅看護における安全対策 1)暮らしを取り巻くリスク 2)安全確保の方法と対策 3)医療事故の種類と対策 4)災害への対策		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。
	試験		
履修要件			

評価方法	筆記試験 課題レポート、グループワーク、演習参加態度等
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考文献	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 在宅療養を支える訪問看護について理解し、居宅における看護の役割を学ぶ。 看護の介入時期と看護の継続性について学び、在宅看護における対象別看護の特徴を理解する。</p> <p>目標: 1 訪問看護ステーションの概要及び活動内容を理解できる。 2 訪問看護制度に基づく看護について理解できる。 3 訪問看護の対象の特徴を理解できる。 4 居宅におけるケアマネジメントや社会資源の活用方法について理解できる。 5 在宅看護介入の目的と方法、特徴について理解できる。 6 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 地域・在宅看護における対象者の特徴 2 健康維持・増進のための支援 1)暮らしの場で看護を提供するための心構え 2)パートナーシップとコミュニケーション 3)訪問看護制度	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
2	3 家族への支援 1)家族を支援する基本的姿勢 2)療養の場における家族の捉え方 3)在宅療養者と家族への看護	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
3	4 様々な家族の理解と家族支援 1) 家族の役割 2) 家族介護負担 3) レスパイトケア 4) 多問題家族		
4	5 地域・在宅看護における時期別の看護 1) 健康な時期の看護	準備:テキスト・配布資料を読む。 グループワークに必要なテキストや資料を復習する。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
5	2) 外来受診期における看護		
6	3) 入院時の看護		
7	4) 在宅療養期の看護		
8	5) 急性増悪期の看護		
9	6) 終末期の看護(グリーフケアを含む)		
	6 地域におけるライフステージに応じた支援 (制度と看護支援) 演習:グループ発表		
10	7 慢性疾患を抱えた療養者とその看護の実際	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
11	8 精神疾患を抱えた療養者とその看護の実際	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
12	9 がん治療中の療養者とその看護の実際	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
13	10 難病療養者とその家族支援の実際(筋萎縮性側索硬化症の療養者の支援)	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
14 (3h)	11 在宅ケアを必要とする小児とその看護の実際	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	

	試験	
履修要件		
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践	
参考文献	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 ピラールプレス 看護師のための地域看護学	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 在宅看護における援助を実践するための基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>目標: 1 在宅看護活動に必要なコミュニケーション技術が理解できる。 2 在宅看護に必要な看護技術を理解し、基本技術ができる。 3 対象者の病状経過の予測や予防的支援に関する基本的技術ができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 在宅看護活動を支えるコミュニケーション 1) 訪問看護におけるマナー (1)在宅療養環境の整備(演習) 2) セルフケアを支える対話	準備:「看護師の倫理綱領」を読んでおく 復習:学習内容を復習し理解を深める	
2	2 在宅看護に必要な病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) フィジカルエグザミネーション 3) 健康行動理論・セルフケア理論の活用	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく 復習:授業内容を振り返りまとめる	
3	3 呼吸・循環に関する在宅看護技術 1) 呼吸・循環のアセスメントと援助 2) 在宅酸素療法(HOT)を活用している療養者の援助(演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく (在宅酸素療法時の留意事項を事前学習)	
4	3) 人工呼吸療法(NPPV・HMV)を使用している療養者の援助(援助)	復習:授業内容を振り返りまとめる	
5	4 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 1) 食生活・嚥下のアセスメントと援助 2) 経管栄養法(経鼻・胃瘻)・在宅中心静脈栄養法(HPN)で栄養管理している療養者の援助(演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく (経管栄養・中心静脈栄養の種類と管理は事前学習) 復習:授業内容を振り返りまとめる	
6			
7	5 排泄に関する在宅看護技術 1) 排泄のアセスメントと援助 2) 排泄機能に障害がある在宅で療養者の援助 (おむつ交換・摘便・膀胱留置カテーテル・ストーマ管理の演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく 復習:授業内容を振り返りまとめる	
8			
9	6 移動・移乗に関する在宅看護技術 1) 在宅での移動・移乗に関するアセスメントと援助 2) 移動動作に障害ある在宅療養者の援助 (1)福祉用具を活用した移動の援助の工夫と実際 ベッド⇄車いす⇄トイレ⇄浴室への移動(演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく 福祉用具の事前学習 復習:授業内容を振り返りまとめる	
10			
11	7 清潔・衣生活に関するアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメントと援助 2) 在宅で清潔を保つことが必要な療養者の入浴・清拭の工夫・方法(演習) 3) 在宅での褥瘡の予防とケアの工夫(演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 基礎看護学の既習内容は復習しておく 浴室の福祉用具の事前学習 復習:授業内容を振り返りまとめる	
12 (3h)			
13	8 疼痛緩和に関するアセスメントと援助 1) 苦痛と安楽のアセスメント 2) 在宅で疼痛緩和が必要な療養者の援助 苦痛・安楽への援助の工夫 (演習)	準備:テキスト・配布資料を読む 既習学習は復習しておく 復習:授業内容を振り返りまとめる	
14			

15	試験	
履修要件		
評価方法	レポート、グループワークへの参画態度、筆記試験	
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス	
参考文献	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 必要に応じて適宜紹介する。	
履修上の 留意事項	基礎看護技術、診療の補助技術の復習をして臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護援助論 演習 I	単位数(時間)	1 単位(15 時間)
開講年次	2 年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 地域共生社会の構築・推進を念頭に、実際の地域環境にふれ、暮らしを支える看護の基礎を学ぶ。</p> <p>目標: 1 地域で活動する看護の目的、看護職の役割・活動内容について理解できる。 2 地域で生活する人々の健康ニーズについて理解できる。 3 地域で暮らす人々への看護の役割を考慮することができる。 4 地域で生活する人々があらゆる場で健康的に生活するための看護支援のつながりについて説明できる。 5 地域包括ケアの背景と概要について理解できる。 6 地域における保健・医療・福祉の連携について理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 地域看護学の概念 1) 地域看護学の意義、理念と目的 2) 健康の捉え方の変遷 3) 地域看護活動の場と対象 4) 地域看護学と公衆衛生学	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を振り返りまとめる。	
2	2 地域看護活動の場と特性 1) 行政機関における地域看護活動 2) 病院・在宅における地域看護活動 3) 学校における地域看護活動 4) 産業における地域看護活動	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:自分が暮らす地域について文献・ネットなどで調べる。	
3	3 地域アセスメントの意義と方法 1) 地域アセスメントの必要性とその方法 4 地域アセスメント(演習) 1)学校のある地域の理解:どんなデータが必要か話し合う	準備:テキスト・配布資料を読む 復習:学校のある地域の特徴(人口、地形、保健医療福祉の社会資源など)を文献・ネットなど検索し調べ、まとめる。	
4	5 学校のある地域の理解: 1)地域アセスメントを行うにあたって効果的な調査方法や情報のまとめ方を話し合う 2)発表	準備:課題に沿って準備をする(個人ワーク) 復習:グループワークの結果と個人ワークを照合し、追加修正する。	
5	3)フィールドワーク グループ毎に決めた目的に沿ったバリアフリーマップ(健康診査・健康増進マップ)を作成する	準備:フィールドワークを実施するための準備を行う。	
6	4)地域の特徴の理解:グループワーク その地区ならではの特徴と課題、看護師として特に重要な地域の課題、QOLに関するもの	復習:グループワークの結果と個人ワークを照合し、追加修正する。	
7	5)発表 事前に調べたデータ、マップから見える状況、特徴とそのアセスメントや見解 6)まとめ 地域で暮らす人々への看護の役割	準備:発表を行うための準備を整える。 復習:「地域で暮らす人々への看護の役割」をA4判1枚にまとめて提出する。	
	試験		
履修要件			

評価方法	課題レポート、グループワーク、演習参加態度等
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考文献	ピラールプレス 看護師のための地域看護学 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 厚生労働統計協会、国民衛生の動向
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。提出物は提出日時を厳守すること。 フィールドワーク、グループワークに積極的に取り組み、知り得たことを自分の言葉で表現するように努力する。
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論
授業科目	地域・在宅看護援助 論演習Ⅱ	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年次	卒業認定の方針 との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と 実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的:看護の介入時期と看護の継続性について学び、在宅看護における対象別看護の特徴を理解する。 目標: 1 在宅看護介入の目的と方法特徴について理解できる。 2 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。 3 訪問看護における看護過程の特徴が理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 地域・在宅看護の展開 1)訪問看護における看護過程の特徴 2)看護過程の展開方法(ICF の概念) 3)看護過程における情報収集とアセスメント 2 事例提示①【脳血管疾患後遺症のある療養者】 3 情報整理(個人ワーク)	準備:テキスト・配布資料を読む。 事前課題を行う。 復習:事例を読み概要を理解する。 ビジュラン 在宅看護のためのアセスメント事例集「VOL.1 慢性期脳梗塞患者の看護事例」を視聴する。	
2 (3h)	4 全体像の把握、アセスメント(グループワーク) 5 看護目標の設定、計画立案 6 初回訪問演習準備(グループワーク)	準備:事例の情報整理、アセスメントを行う。 復習:グループワークで話し合った内容について振り返りまとめる。	
3	7 訪問看護ケアに必要な看護技術(演習) 1)初回訪問場面ロールプレイ 8 事例提示②【訪問看護利用後】	準備:演習のための技術練習を行う。 復習:演習内容をワークシートに記載し、振り返りまとめる。	
4	1)医療的管理を必要とする療養者への支援技術と看護ケア実践(演習) (1)在宅酸素管理	準備:演習のための技術練習を行う。 復習:演習内容をワークシートに記載し、振り返りまとめる。	
5	2)在宅看護におけるリスクマネジメント(演習) (1)急変時対応	準備:演習のための技術練習を行う。 復習:演習内容をワークシートに記載し、振り返りまとめる。	
6	9 シミュレーション学習(在宅での終末期) 1)実施と評価	準備:演習のための技術練習を行う。 復習:「地域・在宅看護における看護師の役割」について A4 判1枚にまとめて提出する。記録を整理する。	
7	2)まとめ・記録の整理		
履修要件			
評価方法		課題レポート、グループワーク、演習参加態度等	
テキスト		医学書院 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践	
参考文献		医学書院 弱み強みから見た在宅看護過程 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス 必要に応じて適宜紹介する。	
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。	
備考			